

【成果報告】

七寺一切経における日本撰述経典について

前
島
信
也

【成果報告】

七寺一切経における日本撰述経典について^①

前島 信也

はじめに

一 書誌情報

愛知県名古屋古屋市にある稲園山長福寺、通称七寺には院政期末に書写された一切経が現存する。この一切経は昭和四十三（一九六八）に調査・整理され、『尾張史料 七寺一切経目録』（以下、『目録』と略称）が刊行された。そしてこの七寺一切経に多数の稀観本が含まれることが判明し、その詳細は『七寺古逸経典研究叢書』（以下、『七寺叢書』）によって明らかとなった。これら稀観本は『毘羅三昧経』『清浄法行経』などの中国撰述経典のほか、『彼岸経』『大乘毘沙門功德経』といった日本撰述経典などが挙げられる。

本論では先の『目録』『七寺叢書』では判明しておらず、実地調査を通じて判明した資料として、『仏説老女経』『仏説毘沙門経』を紹介し、その内容と受容についての検討と、両経が日本撰述経典であることを示す。そして『仏説老女経』の翻刻・訓読・訳注を提示するものである。

まず、実地調査に基づく両経典の書誌情報を提示する。

仏説老女経（仮四函）^③

外題…佛説老女経 一卷 首題…佛説老女経 尾題…佛説老女経
 訳者撰述者名…(ナシ) 巻数…一 装訂…卷子 表紙…原表紙
 軸…(欠) 界線…淡墨界天地朱界 存欠…完 紙数…三紙 奥書…一校了 慶光

仏説毘沙門経（仮十七函）

外題…(欠) 首題…(欠) 尾題…佛説毗沙門経 訳者撰述者名…(欠) 巻数…一 装訂…卷子 表紙…(欠) 軸…(欠) 界線…淡墨界天地朱界 存欠…首欠 紙数…九紙 奥書…曩莫吠室羅麼拏野摩阿泥波羅惹 一某／甲／南无蘇都帝／二校了 榮俊^④

これら書誌情報から、両経ともほかの七寺經典の装訂と一致する。これに関する検討は三章で行う。

二 発見の経緯

次に両經典が近年の調査によって判明した経緯を提示する。

仏説老女經

この經典は大乗經典の支謙訳『仏説老女人經』（正蔵一四・九一一―九二二）の重複書写として『目録』に記載されていた^⑤。しかし実地調査によって、仮四函に収められる經典は大正蔵所収經典とは別經典であることが確認された。また、もう一本の『仏説老女人經』は大阪市立美術館寄託分に含まれており、これは実地調査により大正蔵所収經典と一致することを確認した。

仏説毘沙門經

この經典は、大乗經典の不空訳『仏説毘沙門天王經』（正蔵二一・二二五―二二六）として目録に記載されていた^⑥。しかし実地調査において、その内容と異なることが指摘されており、改めて内容を調査した結果、不空訳のものとまったく異なる經典であることを確認した。なお、不空訳の經典は現在までに確認できていない。

三 七寺一切經の一具か否か

七寺一切經は院政期末、承安五年（安元元年、一一七五）から治承二年（一一七八）にかけて、その大半が書写され、治承四年（一一八〇）までに録外經典・聖教を書写したことが奥書から明らかとなっている。また体裁としても、基本的に大般若經と一部聖教類の界線は全朱界、そのほかの經典は淡薄界天地朱界で統一され、ほとんどに書写奥書、もしくは校合奥書が名前を含めて記されている^⑦。このことから、他の經典と同一の形式を有する両經典は一一七五―一一八〇の間に書写された蓋然性が高い。ここでは、両經典とも校合奥書を有しているため、その点を含めて今一度確認しておきたい。

仏説老女經

校合奥書名は「慶光」である。慶光の名は、ほか約二百巻の奥書に確認することができる。その大半は校合奥書であるが、わずかながら書写奥書でも確認することができる^⑧。また、初期に書写された『大般若波羅蜜多經』の校合奥書・書写奥書から、『広弘明集』といった賢聖集の校合奥書にまで名前を確認できるため、七寺一切經製作事業の中心人物のひとりであると考えられる。また奥書の内容から、慶光は天台末学の僧であり、禪惠房とも称していたことが確認できる。

『大般若波羅蜜多經』卷第四百十一書写奥書

右筆天台末学慶光

『大般若波羅蜜多經』卷第五百十書写奥書

承安五年三月九日巳時許書／右筆禪惠房 慶光

『大般若波羅蜜多經』卷第五百四十書写・校合奥書

承安五年七月十八日 右筆僧慶光／廻向无上大菩提／三本一校畢 慶光

これら『大般若經』の奥書の筆は堅く、『仏説老女人經』のそれとは異なるように見えるが、『稱讚浄土仏撰受經』『文殊師利問菩提經』『大乘理趣六波羅蜜多經』巻第七などにおいて、近似する筆跡を確認できることから、すべて同一人物の筆跡であると判断できる。

仏説毘沙門經

校合奥書は「栄俊」であり、この名は千七百巻余りの校合奥書で確認できる。「栄俊」は七寺一切經を勸進した「栄芸」の弟子であり、紛れもなく七寺一切經製作事業の中心人物である。『大雲輪請雨經』などの奥書の筆跡とも一致する。

以上のことから、両經典は七寺一切經の一具であり、一一七五―一一八〇の間に書写された經典である。

四 經典内容

両經の内容は、大正新脩大藏經内に確認することができないため、以下に簡単な概要を示す。

仏説老女經

この經典は非常に短く、老女が老苦について仏に尋ねるものである。内容を大きく分けると以下の三つに分けることができる。

- 一、老女の老苦に関する仏への請願
- 二、老苦の原因についての仏の説示
- 三、仏の説示

一では、老女の生い立ちや老いの苦しみについて記述され、老苦というものが、自身の内側から生じるものなのか、外に原因があるのかを仏に尋ねる。次に二では、労苦が自身の五臓にあるものと仏は述べる。そして五臓には生老病死の四苦の種子、五道の種子、五智の種子、五仏種子があるとし、善法と悪法は自身の内側によって生じるものであるとする。そして三では、老苦だけでなく死苦にも言及し、罪悪を懺悔し、道心をおこすように諭される。全体を通じて追句、もしくは追句を意識した表現を多用し、文学的である。その一方で誤写が多く、非常に読解が困難である。また老女に対する説示のなかで、男性を意識した表現も見え、整合性が取れていない箇所も見受けられる。詳細は「七寺一切經録外經典『仏説老女經』翻刻・訓読・訳注」を参照されたい。

仏説毘沙門經

この書は首欠ながら、全体を通じて毘沙門天の供養・功德の内容を提示する。大きく分けると以下のようなになる。

釈迦仏による毘沙門天の心呪の功德の説示

釈迦仏による毘沙門天の心呪の具体的行法の説示

釈迦仏による毘沙門天五十五種勝利の説示

釈迦仏による毘沙門天五十五勝利の具体的行法の説示

釈迦仏による毘沙門天の現前の因縁の利益の説示

釈迦仏による毘沙門天の現前の因縁の利益に対する具体的行法

毘沙門天の利益の決定の証左の説示

毘沙門天の弘願の説示

毘沙門天の三身名字の説示

釈迦仏による毘沙門天の守護の説示

毘沙門天の凶像の説示

毘沙門天の威力・行の期間・回数とその功德の説示

救脱菩薩による毘沙門天の証明

注目される点のひとつに、毘沙門天の功德として「五十五勝利」を提示する点が挙げられる。この功德については、七寺一切経のひとつであり日本撰述經典であると指摘された『大乘毘沙門功德経』と関連しており非常に興味深い。加えて、その具体的修法とその功德・毘沙門天の弘願・毘沙門天の名字とその功德・毘沙門天の凶像・行の期間と回数とその功德などが提示されている。また尾題の後に毘沙門天王の真言「吠室羅摩拏野摩阿泥波羅惹」が付されている。この經典の翻刻などは、次号の紀要に掲載予定である。

五 經典の引用

仏説老女経

この經典を引用する典籍は確認できていない。また、その名称が『開元釈教録』、『貞元録』、『大正蔵』に入蔵される『老女人経』『老母経』の異称でもあるため、文書などからその受容を判断することができない。

仏説毘沙門経

この經典を引用する典籍については、『大乘毘沙門功德経』と関連することから、『七寺叢書』四の齋藤隆信『大乘毘沙門功德経』解題を参照した。その結果、覚禅『覚禅鈔』^①、頼瑜『薄草子口決』、『秘鈔問答』、亮禅・亮尊『白寶口抄』^④、澄憲『転法輪鈔』^⑤に引用を確認できた。引用箇所が共通するものもあるため、内容ごとに提示し、文字の異同は、傍線もしくは注によって示した。

【毘沙門天名字事】

『仏説毘沙門経』

爾時毘沙門天王復白仏言。我為未來世一切衆生而作大歸依所。最顯三身名字。一者毘沙門天王護世者。二者羯咤天王。三者不思議王。示如是三身之字唯當維顯三身猶以本願力故或爾菩薩之像或爾天王之体或爾忿怒之身或爾愛敬降伏之心或爾三世王或爾平等性智之形雖示如是種種名字。遂為行者万億方便之事現前。而以本願名字度衆生。称是而毘沙門天王護世者。譬如諸仏世尊之於一乘別三乘。我亦復如是。

『薄草子口決』(正蔵七九・二九五中)

名號事 祕密藏王呪經云。我為未來世一切衆生而作大歸依所。最顯三身

名字。一者毘沙門天王護世者。二者羯吒天王。三者不思議王。示如是三身之字¹⁶。雖示如是種種名字。遂爲行者萬億方便之事現前。而以本願名字度衆生。稱是而爲毘沙門天王護世者。譬如諸佛世尊之於一乘別三乘。我亦復如是^文。

『秘鈔問答』(正藏七九・五三三上)中)

『秘密藏王呪經』云。我爲未來世一切衆生而作大歸依所。最顯三身名字。一者毘沙門天王護世者云。二者羯吒天王云。三者不思議王云亦。如是三身之字¹⁷。雖示如是種種名字。遂爲行者萬億方便之事現前。而以本願名字度衆生稱。是而爲毘沙門天王護世者。譬如諸佛世尊之於一乘別三乘。我名復如是^文。

『白寶口抄』(圖像七・一三七下)

『秘密藏王呪經』云。我爲未來世一切衆生而作大歸依所。最顯三身名字。一者毘沙門天王護世者。二者羯吒天王。三者不思議王。示如是三身之字¹⁸。雖示如是種々名字。遂爲行者萬億方便之事。現前而以本願名字度衆生。稱是而爲毘沙門天王護世者。譬如諸佛世尊之於一仏乘別三乘。我亦復如是。

これらは毘沙門天の名字に関する記述である。すべて『秘密藏王呪經』からの引用として、「我爲未來世」から「我亦(名)復如是」までを引用し、途中の省略も一致する。細かい異同はあるが、同一箇所からの引用が想定される。

『毘沙門天圖像事』

『仏説毘沙門經』

若有行者造作天像時。如紺瑠璃并金色面。令示忿怒。於當知以右手令執持降伏大跋折羅杖。然左足邊造監婆像。右邊造毘藍婆像。

『白寶口抄』(圖像七・一四〇上)

『秘密藏王呪經』云。若有行者造作天像時。如紺瑠璃并金色面。令示忿怒。於當知以右手令執持降伏大跋折羅杖。然右足邊造藍婆像。

『薄草子口決』(正藏七九・二九六中)

『秘密藏王呪經』云。若有行者。造作天像時如紺瑠璃并金色面令示忿怒。於當知以右手令執持降伏大跋折羅杖。然左足邊造監婆像^文。右邊造毘藍婆像。

『秘鈔問答』(正藏七九・五三四中)

『秘密藏王呪經』云。若有行者造作天像時。如紺瑠璃并金色面令示忿怒。於當知以右手令執持降伏大跋折羅杖。然左足邊造監婆像。右足邊造毘藍婆像^文。

一部異なるものの、内容としてはほぼ一致する。三書に見える「押腰以左手令」については、前後の文章から判断すると、七寺本『仏説毘沙門經』が脱

文しているものと考えられる。これに関連して『諸像図像集』（金沢文庫本）、『阿婆縛抄』に以下のようにある。

『諸尊図像集』（金沢文庫本）巻下（図像二二・八八八）

毘沙門藏呪云。於白疊上画毘沙門神ヲ。七寶ニヨテ莊嚴ス。身ニ着衣甲ヲ。左手把乾鞞。右手託要月。其神脚下ニ画二夜叉ヲ。鬼形面作黒色文。

『阿婆縛抄』一三六（『大日本仏教全書』（名著）四〇・三中）

隨軍護法真言云。画一毘沙門神。七宝莊嚴衣甲。右手執乾鞞。左手託腰上。其神脚下作二夜叉鬼。身並作黒色。其毘沙門面作甚可異形。悪眼視一切鬼神勢。

『諸尊図像集』では「毘沙門藏呪」から、『阿婆縛抄』では「隨軍護法真言」から引用しており、表現としては両書で一致する。しかし図像の内容としては近似するものの、『仏説毘沙門經』『白寶口抄』『薄草子口決』『秘鈔問答』とは一線を画している。

【五十五勝利事】

この「五十五勝利」については、『大乘毘沙門功德經』『除念毒功能品第二十三』にも記述があるが、その内容とは大きく異なる。『大乘毘沙門功德經』解題』では、『毘沙門藏王呪經』からの引用として『覺禪鈔』『五十五種功德事』、『転法輪鈔』『五十五勝利』を指摘しており、その内容はこの『仏説毘沙門經』と一致する。また『白寶口抄』にも同内容の記述があるため、

以下に提示する。なお省略が多いため、ここでは異同箇所を提示しない。

『仏説毘沙門經』

若有行者誦天王秘密王呪陀羅尼十方遍者当必獲得五十五勝利云何五十五勝利者一者不疾病苦。二者不飢饉苦。三者不盜賊苦。四者不相殺生苦。五者不顧形醜。六者不破五体。七者不相横怨敵苦。（中略）四十九者得呪力如大福長家主。（中略）五十一者得呪力如寿命堅固金剛山及四大海无動。五十二者得呪力如諸菩薩中者最為仏第一。五十三者得呪力若至病者之処急然得療愈。五十四者得呪力通達八万四千法藏自然如諸仏実性義。五十五得呪力若行者臨命終時毘沙門天王行者口入金色寶光而遂得生弥勒三会之遲名速証无上菩提之果。如是之事為得五十五勝利。（中略）若行者欲求官祿者燒名香灯白芥子油蘇蜜等供於像修行如是者於天王別率二十八衆使者到其囿王舍宅之中於是人急令授官位祿（中略）爾告大衆并諸一切衆生等而是大王弘誓无数劫不説書（中略）若有行者每後夜名字一百八遍者二十八部使者來集其行者房側隨侍衛護。（中略）若行者多煩惱業及鐘飢疾病盜賊之難滅時者処撰一切難而即皆悉消除若行者身根清淨福德慧增長若修行時若坊一切惡及毘那藥迦等者二十八部衆使者常打追而不得其便伺（中略）若行者誦一遍者能除一切苦厄難若誦二遍者除滅億劫生死重罪若誦三遍者三時現前乃至通達八万四千法藏漸自然若誦四遍者惣種種法門終不忘失若誦五遍者速得无上正等菩提（中略）若行者如經卷誦者当知諸仏所説及天王誓願如是行者当知為是修行若少勿生疑

『覺禪鈔』（図像五・五三七中）

裏書 八七〇

五十五種功德事

毘沙門經云。有五十五種功德。或不遇病苦。或不遇飢渴苦。或不遇盜苦。或不遇殺害苦。或不遇獅子虎狼橫死苦。不生五逆放逸。或不生貧家。或不生醜陋身。或壽命堅固云々。

『白寶口抄』(圖像七・一四四中)

毘沙門經云。有五十五種功德。或不遇病苦。或不遇飢渴苦。或不遇盜苦。或不遇殺害。或不遇師子虎狼橫死苦。不生五逆放逸。不生貧家。或不生醜陋身。或壽命堅固文。

『白寶口抄』(圖像七・一四五上)

毘沙門經云。每後夜称名字一百八遍者二十八部使者来集其行者房。随侍衛護。

『轉法輪鈔』(『安居院唱導集』上・三三三中〜三三三上)

藏王呪經云^ウ 仏告毘沙門天王護世者○汝弘誓之深我亦是經卷召刀并福利者不云窮悉但以無量無辺之却応所得功德説○受持是經卷及呪者於当知受持一切經藏○若有行者誦秘密藏王呪^ナ 陀羅尼十方遍者当必獲得五十五勝利云何五十五勝利者。一者不疾病苦。二者不飢饉苦。三者不盜賊苦。四者不相殺生苦。五者○七者不相横怨敵苦○四十九者得呪力如大富長者家主。五十一者動^ウ。五十二者得呪力如諸菩薩中者最為仏第一。五十三者得呪力若至病者之処忽然得疾愈。五十四者得呪力通達八万四千法藏自然如諸仏寶性義。五十五者得呪力若行者臨命終時^ナ 此毘沙門

天王者口入金色寶光而遂得生弥勒三会之庭必速証无上菩提之果。如是之事為得五十五勝利。

若行者欲求官祿者燒名香灯曰答子油蘇蜜等供養於像修^ウ 行如是者於当天王行率二十八衆使者到其国王舍宅之中於是人忽令授官位祿也。

爾時仏告大衆并諸一切衆生而是天王弘誓无数劫不可説尽若男子等如説造像書經滿呪供壇天王唱名字名当蒙天王之守護若有行者每後夜名字一百八返者^ナ 二十八衆使者来集其行者房側随侍衛護。

若行者多煩惱業及饑疫病盜賊之難盛時処根一切難而即皆悉消除若行者身根清淨福慧增長若修行時若妨一切惡鬼及那藥迦等者二十八衆使者常打追而不得其便伺。若行者誦一返者能除一切苦厄難若誦二返者除滅億却生死重罪若誦三遍者三時現前乃至重逆八万四千此藏術自然覺誦四^ナ 遍者物種々法門始不忘失若誦五遍者速得无上正等菩提云々。若行者有少勿生疑。

『覺禪鈔』『白寶口抄』は表現が一致するため共通した典籍の引用を推定できる。『轉法輪鈔』は冒頭の一部と部分的な異同があるものの大半が一致する。ただし『覺禪鈔』には、同じく「毘沙門經云」としながらも、不空訳『毘沙門天王經』から引用(正蔵二一・二二五中)するものもある。

『覺禪鈔』(圖像五・五三七上)

裏書 八六九
得錢事

毘沙門經云。告殺儻婆童言。子日々送金錢一百文云々

ここまで提示した典籍の大半は「秘密藏王呪経」「毘沙門経」「藏王呪経」といった表現を用いていることから、『仏説毘沙門経』の正式名称は『仏説毘沙門天王秘密藏王呪経』であることが推定される。この經典名は、『覚禪鈔』『白寶口抄』『薄草子口決』に確認できる。

『覚禪鈔』(画像五・五三二下)

本書

毘沙門天王経一卷 不空訳。真。大慈云。經字下一品云々。智。禪林注云。有序説大福德

摩訶吠室囉末那野提婆喝羅闍陀羅尼儀軌一卷 般若論三藏訳 大師

天王念誦法一卷 大師録外云々

多門天法一卷 伝教 秘録云。北方毘沙門天王真言法灯。私云内題歟

青面北方天陀羅尼法一卷 伝秘録題也。別録如朱付

北方毘沙門天王真言法一卷 慈覚

北方毘沙門天王隨軍護法真言一卷 不空三藏別行翻訳靈藏

仏説北方毘沙門天王甘露太子那吒俱伐羅秘密藏王隨心如意救撰衆生根本

陀羅尼一卷 安祥

北方毘沙門天王念誦要經二卷 小来栖

毘沙門寶藏天王神妙陀羅尼別行儀軌卷 無訳人名。説得大福德。唯經末似不足。禪林七張。秘録云。毘沙門天王別行法云々。

毘沙門藏王陀羅尼法一卷 無訳人名。説種々別法。禪林六枚。朱。無秘録

毘沙門多聞寶藏天王神妙章句陀羅尼一卷 達磨迦那訳。説憂憎降伏怨。止雨伏外道禪林六紙。朱。無秘録

四天王経一卷 貞元小乘録秘録載之

毘沙門楨子一副 禪林

裏書 八六二

録外本経

毘沙門秘藏王呪経一卷

毘沙門藏呪経一卷

大乘毘沙門功德経一卷

毘沙門天王功德経一卷 世流布小経

毘沙門天王経一卷

毘沙門経一卷

已上三卷大旨同之。真偽可尋

(画像五・五三六下)

『白寶口抄』(画像七・一三六下〜一三七上)

本書事

毘沙門天王経一卷 不空訳。海。觀。貞元新入目録。仁。珍

仁云。經字下一品一卷云々。海叡珍録共無一品之字。禪林注云。有序

説大福德七紙或五枚。

摩訶吠室囉末那野提婆喝羅闍陀羅尼儀軌一卷

闍陀羅尼儀軌一卷 般若論三藏訳 海

天王念誦法一卷 大師録外云々

多門天法一卷

伝教秘録云。北方毘沙門天王真言法灯

私云。内題歟

青面北方天陀羅尼法一卷

傳教。秘錄題也。別錄如來付

北方毘沙門天王真言法一卷

傳教 仁

北方毘沙門天王隨軍護法真言一卷 不空三藏別行翻詛靈巖

仏説北方毘沙門天王甘露太子那吒俱伐羅秘密藏王隨心如意救撰衆生根本

陀羅尼法一卷 惠運

北方毘沙門天王念誦要經二卷

小來栖常暎

北方毘沙門寶藏天王神妙陀羅尼別行儀軌一卷 無誤人名。説得大福德。唯經

未似不足。七紙叟。秘錄云。毘沙門天王別行法一卷。

毘沙門寶藏天王神妙陀羅尼經一卷

此經与前別行儀軌。同本異誤歟。文言全同也。

毘沙門藏王陀羅尼法一卷 無人名。説種々別法。六枚。禪林

那吒句鉢羅陀羅尼經一卷

叟錄云。無人名 三十四載

毘沙門多聞寶藏天王神妙章句陀羅尼一卷 達磨通 那託。

説愛増降伏怨止雨伏外道長年三悉地。禪林 六紙。秘錄不載之

四天王經一卷 真元小乘錄中載之 智嚴与寶雲訳 秘錄不載之

毘沙門禎子一副 禪林

録外本經事

毘沙門天王秘密藏王呪經 恩情

毘沙門藏王呪經三卷 都盧

大乘毘沙門功德經七卷 恩情

大乘毘沙門功德經一卷 恩情

私云。已上兩經者広略歟

毘沙門天王功德經一卷 世流布小僧

毘沙門天王經一卷 達磨伽耶

毘沙門經一卷 已上二卷大旨同之。 真偽可尋之也。

多聞天鈔一卷 貞觀僧正

多聞羅惹念誦次第第一卷 法三宮

毘沙門天王儀軌一卷 叟

此軌出野抄也

『薄草子口決』(正藏七九・二九七中)

具書事

毘沙門天王經 不空

北方毘沙門多門寶藏天王神妙陀羅尼別行儀軌 禪林祿

毘沙門寶藏天王神妙陀羅尼經 與前軌同 本異譯歟

摩訶吠室囉末那野提婆喝囉闍陀羅尼儀軌一卷 般若所 揭若羅

佛説毘沙門天王秘密藏王呪經 恩情

大乘毘沙門功德經七卷 恩情

毘沙門藏王呪經三卷 都盧

毘沙門經一卷 達摩 伽耶

大乘毘沙門功德經一卷 恩情

『覺禪鈔』『白寶口抄』では録外文献として、『薄草子口決』では特に指定なく、『仏説毘沙門天秘密藏王呪經』を記載する。そこには『大乘毘沙門功德經』も含まれ、関連性の高さを窺わせる。¹⁹⁾

また、この『仏説毘沙門天秘密藏王呪經』という經典は大谷大学に写本が現存する。実地調査によって確認したところ、大谷大学図書館所蔵本は江戸期の写本だが、完本として現存しており、その内容は細かい異同があるものの、同一内容文献であることが判明した。²⁰⁾ よって七寺所蔵の『仏説毘沙門經』の正式名称は『仏説毘沙門天秘密藏王呪經』であり、七寺本の欠損部分を大谷大学図書館所蔵本で補うことが可能であることが明らかとなった。両書の関係については今後の研究で明らかにする。

六 日本撰述經典

最後に両經が日本撰述經典である根拠を本文中の表記から確認する。今回取り上げた『仏説毘沙門經』と関連が深い『大乘毘沙門功德經』は、既に衣川賢次氏によって日本撰述經典であることが、漢文と変体漢文との相違点²¹⁾の具体的例証をもって提示されている。²²⁾ よって衣川氏の手法および、その背景たる築島裕『平安時代の漢文訓読につきての研究』(東京大学出版会、一九六三)に基づき、峰岸明『変体漢文 新装版』(吉川弘文館、二〇二二)、田中草大『平安時代における変体漢文の研究』(勉誠出版、二〇一九)などを適宜参照しながら検討する。

衣川氏は築島氏の研究をもとに、変体漢文の特徴を踏まえ、以下の点から

具体的例を提示している。²³⁾

- (1) 漢字を和文の語順に従って連ねること(措辞法の中に、漢文式でなくして日本語式になっている部分があること)
- (2) 漢字の特殊な用法、破格・誤用(漢字の用法の中に、純漢文の中での本来の用法から外れたものがあること)
- (3) 訓読上の補読語に漢字を当てた例(純漢文を訓読する際には補読すべき語(即ち、純漢文として表記するときには表記しない語)を変体漢文では漢字として書き加えること)
- (4) 和製漢語の明らかな例(純粹の漢文に用いない和語を漢字で表現すること・固有名詞以外の語を、万葉仮名・省画仮名などを用いて表記することがあること)

両經典がすべての要素を含んでいるわけではないが、これに該当する箇所を具体的に提示する。

『仏説老女人經』

(1) の例

・ 目的語―述語の順となる。

汝我問老苦從外不來 (汝、我に老苦が外従り來ざるかを問う)

(4) の例

・ 和製漢語の明らかな例

猿樂

三津河

超死手山峨險 (死手山の峨險なるを超えん)

三津河・死手山：『十王経』に基づくとされる語句。閻魔王国との境にある山。

『仏説毘沙門天経』

(1)の例

・目的語―述語の順となる。

是経広思者応説知之（是経を広めんと思はば、応に之を知ると説くべし）

是経頂上戴受随自念応発願（是の経を頂上に戴き受け、自念に随い応に

発願すべし）

・助動詞の順序が異なる。

四十四者若行者他人令作（四十四には若し行者が他人に作らしむ）

若疑生令者（若し疑を生ぜしむる者）

(2)の例

・「相」を「あう（逢う・遭う）」に当てる

八者不相虎狼禽獸難。九者不相横死苦。（八には虎狼禽獸の難に相わず。

九には横死の苦に相わず）

・形式体言「事」の用法²⁴

如是之事（是の如きの事）

譬如上五十五勝利之事（譬えば上の五十五勝利の事の如し）

これらの点から、両経ともに日本撰述経典であることは明らかである。

以上、七寺一切経の一具である『仏説老女経』『仏説毘沙門経』について、

以下の点を明らかにした。

・両経典は校合奥書の名前から院政期末に書写された七寺一切経の一具である。

・『仏説老女経』は内容が共通する典籍を確認できず、大正蔵入蔵の『老女人経』とも異なる経典である。

・首欠『仏説毘沙門経』の正式名称は『仏説毘沙門天秘密蔵王呪経』であり、大谷大学図書館に江戸期書写の完本が現存する。

・両経典はその本文の表記から日本撰述経典である

本号では両経のうち、『仏説老女経』の翻刻・訓読・訳注を提示する。

注

(1) これは二〇二二年度日本印度学仏教学会第七三回学術大会において本研究所 研究員・前島信也が発表した原稿を加筆・訂正したものである。

(2) 『七寺古逸経典研究叢書』一―六（大東出版社、一九九四―二〇〇〇）。

(3) 現在、七寺一切今日は三一の唐櫃に収められている（うち、五函は東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館・大阪市立美術館・名古屋国立博物館に寄託）が、目録の順序に従って収められているわけではない。そのため『目録』では函それぞれに仮番号を付して整理をおこなっており、本稿でもその整理された仮番号に依るものとする。

(4) 「七寺一切経書誌情報一覧（四）―仮十七函―」（『日本古写経研究所研究紀要』七、二〇二二）九六頁、一二九頁参照。

(5) 『目録』四二頁。

(6) 『目録』四五頁。

(7) 『目録』(一九六頁)では書写者六五名、校合者五六名の名前が提示され、両方に名前がある人物を除くと全体で九〇名程度がこの書写事業に携わっていたとされる。

(8) 『大般若波羅蜜多經』卷第一四一、一五〇、三四〇、四六一、四七〇、五四〇。

(9) 詳細は『七ツ寺記』(元禄十二)に記されることが、『目録』・落合俊典「七寺一切經(『愛知県史』、愛知県、二〇一五、三三頁)で述べられているが、原本未見。『目録』と『愛知県史』の記述に基づく。

(10) 『大乘毘沙門功德經』についての詳細は『七寺叢書』四所収、齋藤隆信「『大乘毘沙門功德經』解題に詳しい。

(11) 『覺禪鈔』……一八〇年代〜一二一七年頃。ただし後代に加えられたものあり。百卷〜百数十卷。

(12) 『薄草子口決』……弘長二年(一二六二)成立。二十卷。

(13) 『秘鈔問答』……永仁二年(一二九七)〜正安二年(一三〇〇)成立。十七卷。

(14) 『白寶口抄』……『秘鈔』の注釈書。亮禪の口説を亮尊がまとめたもの。百六十七卷。

(15) 『転法輪鈔』……安居院澄憲法印が編纂した唱導文献。多くが散逸したが、金沢文庫・国立歴史民俗博物館などに一部現存。

(16) 五一文字分ナシ。

(17) 五一文字分ナシ。

(18) 五一文字分ナシ。

(19) なお、平安中期の請来された典籍の分類目録『諸阿闍梨眞言密教部類總録』や『阿婆縛抄』『溪嵐拾葉集』などにはその名称を見ることはできない。

『阿婆縛抄』一三六(画像九・四一七〜四二五)該当なし。

『溪嵐拾葉集』該当なし。

『諸阿闍梨眞言密教部類總録』(正蔵五五・一一二七中)

多門天法二

毘沙門天王經 一卷 不空譯 貞元新入目録海仁叡珍云一品一卷

北方毘沙門天王念誦要經 二卷 曉

摩訶吠室羅末那野提婆喝羅闍陀羅尼儀軌 一卷 海

毘沙門天王儀軌 一卷 叡

北方毘沙門天王眞言法 一卷 澄仁

北方毘沙門天王隨軍護法眞言 一卷 不空行

毘沙門天王別行法 一卷 叡

那吒句鉢羅陀羅尼經 一卷 叡

佛說北方毘舍門天王甘露太子那吒俱伐羅

祕密藏王如意救攝衆生根本陀羅尼 一卷 運

青面北方天陀羅尼法 一卷 澄

四天王經 一卷 貞元小乘録中載之私云上一宜傍見之

(20) なお、この大谷大学図書館に所蔵される『仏說毘沙門天祕密藏王呪經』は、享保年間に書写された一連の文献群に含まれており、そこには数多くの密教文献が含まれているため、今後の研究で明らかにしていきたい。

(21) 変体漢文の定義としては、あくまでも日本語を漢文として表記するという文体のひとつである。そのため、この經典を含め「經典として中国から齎されたものとして作成される」という疑經という立場は、それとは少々異なることに留意する必要があるであろう。しかし、經典の体をとっていても、そこには漢文とは異なる表記・文法が存在し、それが変体漢文の表記と一致する以上、これは日本撰述偽經であると判断することができる。

(22) 衣川賢次「『大乘毘沙門功德經』の言語」『七寺叢書』四・四二五〜四三二。

(23) なお、()内は築島氏が提示する特徴を提示する。築島氏は相違点としては五点を示すが、衣川氏はその四点目と五点目を同義としたものと考えられる。

(24) 特定の意義を有しながら、一定の内容、実質を持たないもの。